



1981
1



松乃 象れらりうせぬ祓代
 よまらうのうさ人の心
 此さへ今世乃そあうひ
 くらさとなあぬるハ初言れ
 みる小志く事わさ連
 心連汚あを六十二神と学
 ひてそ尽乃他言とむとむ
 分との通とも定建所詞と
 りのくあ後のわささ成
 孫くあなう上吉此先達を
 今の世あを調找とあのあ
 て近乃雲繩りあてくま
 つりきあさあらま

正風よりきする一この
ゆへよあまると近我業と名
付たり也

へ 文 命 出
へ 文 命 出
へ 文 命 出
へ 文 命 出
へ 文 命 出
へ 文 命 出



近我業才一

いふなき 孫ぶらるる也

張やましく 孫やまらるる利

復安と書

いさとも 孫ぶらるる也

いさとも 孫ぶらるる也

乃字なり

いさとも 孫ぶらるる也

いさとも 孫ぶらるる也

いさとも 孫ぶらるる也

いさとも 孫ぶらるる也

いづて

又いさくら

ろとみま

二人

いふ

いづく

六月の

いぢ

お

又す

公早

いづ

九月

いづ

いん

いと

妹山

いづ

名

いづ

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

いと

い

廻鳴 日本記
未食 万 仙宗

山崎 四郎 貞一

又のきくり
乃と又立り也
二人残一と

六月の事
又すこやの成

六月の事
おまなる心

公早卒と書也
乃をさす也

九月乃り也
志は世不念

さそふ也
いとんとす

とえいし
妹山肖山之れ

各なり
乃やきくらし

乃やきくらし
じ也煩勞と書

乃と所く同
事之又一所

乃と所く同
事之又一所

乃と所く同
事之又一所

乃と所く同
事之又一所

乃と所く同
事之又一所

いさよふ やまらふんせ
いさよふ 天川乃道よ

任祿之又いと

されとも云

いせの中 主婦乃中あま

いさけ舟 帆け舟也

いと 女此車之妹

いそよれ花 扱乃ワた也

い月より そろあとなま

いみよけ 志やう志やれ

いち志遠よ 門小立竹之

いち志遠よ 志つとも志

於身あま

いち志遠く あらハ歳之

今やうの志 こうとい乃

衣也又ゆれし

志色同

いさよふ波 志いらくい

志心之

いその人 いまこくれ

人有利

も遠らる いよく志さ

可取那也

いさこ 少莫也

い乃死 いちこのむし

いさあふ さそふ車也

いまひも

うりきぬれぬ

あり又いり

うり衣りむも

な利

ふくむり 不老不死の

業なり

いまのど 市入の事

いも水 新よる量なぬた

いもひも 上海乃あしん

いさ村竹 とも一村

いさ乃と 家来の人々

いそり 町建ちうあを

いそむ 同所とそし世

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

いそむ 又たうり次を

よく照らする

と云車那り

男ふのこ 好ま物とりふ

あふあふ

いしたあひ 女れんこへ

小はる帯い又

こころみふり時

えたへよする

ともいふ也

いお母 いちと云え流

霜上河小積

いらく衣 つまこも衣

いあや 舞小あり入綾

いあつ ぬすいふん也

いあつ ねをねへあふ

いあつ 又溜

いあつ いきなふ也

生の字なり

いあつ 又

あさけいふん也

いあつ いけ

いあつ いふん也

いあつ いふん也

いあつ いふん也

いあつ いふん也

いあつ いふん也

いほく

勇と書なり
今又と云ふは
那方今將也

いされ人

忠管乃人なり
いされ人なり

いんを

常任之恒也

いむし

稲を風乃吹交
神也又川柳の
下朽あり浮流
と云ふ

いとけ

あは笛の歌也
糸竹なり

いんまで

いんまで

いんり人

いんり人

いんり人

いんり人

いんり川

伊勢小ありす

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

いんり

つらひな家

ふん那り

ひさふ家ハふ

てさると云

いぢきんさり

書ての鐘也

入お

家風

衆く乃依法

衆り

の祿一

つり小祿する

まのみてさ

あはれ

つらな

よせをかく

せ

世勞あま

いさゝね

ちいさなわ也

又細

又細や里水之

い

いしりわぬ又い

い

いしり河田也

い

いらく一も

い

也んりま

い

家司あり

い

酒より動さぬ

い

あはれ

い

いと海あく

い

まゝ一も打を

い

くともかくた云

い

くともかくと

也又き通へ

いびつふ月 月ふむのへ

え死に死と云

古事也

いさきまに 版立のう縁野

也又いふまゝ

ともいふこ

いひさう 云あろと也云

致なり

いひおとせ 云くたは也

いひさう かしらうい

きへ又能う

新也いとま

の字を利

いぬあ 人升名へおハ

云なり何君と

云んあ

いそ 物とこうみい

てやあといふ

こゝろ

いそ といそあとい

なり

いそ けきへ猛極

と書あ

いそ 下女と云也

いそ といそと云

花調なま

いそのまや 又鈴河乃上

みあり

いそち 又十寺也又十

寺同り也

いそまゝる とりこもれ

こつのがん云

なり

泉川の舟渡 本津川の船

みて海川也

いそまき くら板之

市め乃商人 相う於女之

いてまき 人中へおて見

うて有き人也

常よりわを思お

とりはるり之

いせのこ 女房をりし所

冬あゝ海也

いそまめ 媒れ事也

いそまの羽 櫻乃三重れ

冬ノ報三り仙原 此れこも

又色の系もて

はとみ也

いそあせ多 山多之唐庭

たふとくも云

岩も一乃矣 乃き山乃祓

枕詞打坐

いそのまゆ 又鈴浦乃上

小浜り

いそち 又十寺也又十

寺同り也

いそまゝる とりこもれ

くろのかげ云

形り

泉川の舟渡 本津川の船

みて海川也

いそまき くら板之

市め乃商人 抱う於女之

いてまき 人中へおて思

うて有き人也

常よりを思お

とりはるり之

いせのこ 女房より一は

冬あゝ海也

いそうめ 媒れ事す

いそまの羽 襦乃三重れ

繪解れく

又色の系もて

はとあ也

いそふせ多 山多々唐庭

たふとくも云

岩より乃矣 久き山乃祓

枕詞打坐

一夜ふかゆる
橋也来れちき
里とよめ里

くされこ海 四尺と馬の

長とりふ

いとふ孫 まれとや娘乃

言きて天々あり

ゆふ舟也

いー一舟 天乃岩船之河

内圃岩舟の津

也又釣舟りる

ふあふ石と入

於とりふへ

岩切ととー 岩よせり

て水様きれん

いとへ くとへをりふ

十重と書へ

いけのい舟 づみをけり

て水とと線と

あか也

いととて 水口糸よ又す

乃串とみて

くくととんさみ

おくりり

後考小田 少ある田也

つまよりとを づふ石也

若と〜の 石之舟人の

調小若と拍乃
あると云之

いふせー 抽りか〜

神なり又行を
流〜交事也

いん小指とめて 祢の意よ

柳とさす〜是
小あるはまり

る家と余所へ

仍さる〜

いん見の〜 う〜むじと云

あ〜後打利

いふをれを 日の祥のがふ

みの神なり雪
乃さひく小似

う〜あ〜

いでの下帯 女小指兼志

ておし〜る帯

いのが風 上野の圃伴若

保活と吹風之
志けふ神と物

乃あま〜りた〜

ふれ更〜也

いん心々 乃意〜一気也

妹戀と書

いろま 程の草也

色れてらさ 色乃てり海

さるるり形り

いまーハ 今とと云調へ

り月石とき づつとハ也

はハや正ぬへ

余小むふ 余とひとき

あり

岩の結ひ松 まろ乃松と

むとひ思ひと

祈あり

いこう といへ云と

同葉一也

いまぬり ありー海と

なり

いきりし 思ひふりむ

也いあらーへ

いぬふりー 牽牛也

いぢめ木 棟木なり

いあふ ちんじん

いー ー也辛

いめのめり ちのめり

なり

いけろろ ちちたすの

あそ利

いーかき じんけり乃

車行る

いのちれ星 七星乃車

うる星也

いのちれ星 七星乃車

行る

いんち 七夕れあふ水

乃海くも也

められ水 地水火風あり

又海其いふ

いなとこ いやと云え海

ちんちやくこ

いとり 女と云ふと云

妹並也書也

いんち 七夕れあふ水

行る

いんち 七夕也系織姫

形り

いんち 七夕れあふ水

形り

いんち 七夕れあふ水

いんち 七夕れあふ水

いんち 七夕れあふ水

いんち 七夕れあふ水

いんち 七夕れあふ水

いんち 七夕れあふ水

いんち 七夕れあふ水

くさる所也

いさく波 浅水浪之又こ

海うふく波

とをりふこ

いなりま ひふ世又いふ

ふれいふ

いとえ えたむかふ

也又百校と書

いふかしく 男の事也

いたふひ 日かたなり

いふやく 流矢あめり

くひふの夫こ

いふつか 世の大総也

いつらふ 才又のふなり

いぬん 草人なり

いとらやま ともや也又早

いのけあ まめ備へ

いさうしふ 行を終ん也

又いふは

くしきふ

と云ふは

いらら山 石見乃若也

いさへ山 筑紫と云ふ山

と云云

いらら山 名所なり

いなむの川 播磨乃いふ

み川有利
又草乃なつ物 又穀也

いありと代 石塔之

いるつ多 庭多あり

いりつとろろ 八月十八日

八幡の法事

なり

いじまろ 弓場殿あり

と射場也

いづくれ人 又人并撰者

なり

いとく志く 孫也志くハ

助あり

いせをのあま たりあま

也と小公なり

いてん佛 みるく仏之

いけの車 系りてりさり

車なり

いさりの巻 ころのありき

巻なり

いふ志に乃海 生死の満

なり

いとくお路と ありのり也

いとくねと 山崎と此花乃

なり

いそふ多 子多あり

いたくく綿 天子よりき

とほかうーお

して踏方の附

うーふ也

つ月忍 遊あり

稲乃菴まら 蒜と細うら

菴あり

いとくく打 石くくうつ

あり石垣へ

いめ人の伏忍 枕詞也爰

人との回参へ

つそ振 綾子あうま石

ほくら也七夕

ふさめなうと

云石なり秋也

つのか 衣くく秋物へ

いくく乃身也

いりり 石之倍よ小石

とくり石と云

ろ

海ふかく有利

ろまう云端は

ろくろく 兄弟也一服之

ろくたきく さとふ心也

ためなて くく正せてへ

しほひさ 吉砂乃くく

いたくく錦 天子よりき

とみかきいふ

して踏方の附

うさふ也

日月見 勝あり

稲乃菴まら 孫と細さる

菴あり

いとくく打 石くくうつ

あり石垣へ

いめ人の伏見 枕詞也爰

人との同家へ

つそ指 残子あゝ石

ほくら也七夕

ふさめなうと

云石なり秋也

ゆのか 衣くく秋也

いさし乃母也

いさし 石之倍よ小石

とさり石と云

ろ

うふ 海ふかく有利

は

くさくさ 兄弟也一服之

くさくさ 心とふ心也

ためなて くらとせて之

えほひさ 志砂乃くら

品名 日記

連と云ふ又と

海ひうーと

ひふく深底之

海さうなり

八月乃り9世

神月

えあーの瘡 羽くくへん

飛くくする也

むにふひる 波乃くつま

とひふれを

むりめ衣 つま之針目衣

まくさ こ海りか程景

え海あき 芦と云へ漢語

と書

えらつされえ ーハく

えーふ あのは世さー

たなると云え

たうぬる也

えーま中 女房へ又あ

ひとねん那り

まうけて 春よかゝ海す

えさ ちさ也将字之

海さる也

えさみあけて たえくま

あう新乃日也

えさく 鳩と云へ海

採とする也
小なる那也

もやをれり
うら車

ことのらら
たりのとる
うつせ

くよまき
同羽二重まで
響のうら

もかやあり
よのよ
もかしく志

羽とのう契
は翼乃る也
ふあう海

といたあはを
ひやうし

もかやめ
那也拍子

もかやめ
是とおく
うら祈あり

もえあり
業乃る事
もふ里こ
林人れり也

もさうつ
山島乃り
花のふく
花よれと付て

花ちかたま
たうひり
もつ家
恥起

もつと鏡
山乃尾あり
物尾乃鏡と
あき

あき
忍と終て
五の

我新を忍てなく古
車一形り

くきり 風雲あとの蒸
ふるり也

しきまり 久撥く車一し

宛のこみ 宛正花なり

宛今てら むんるはひて

不利

しわたの紙 縹と書そく

きなり又んあ

た乃く紙

とあり

えちく 蜂と拂附うそ

と吹ける

よく住し雨 びし住し

雨形り

くやみ ありそや船也

くろとの 紫米そく雨こ

えかこめの祝 始てくま

と付流り也又葉固

のいじひとハえ三

みよまひとのあか

いじいなり

むしう守菌 じふ袋物也

たりのうへ 曇りまつさと

お桐子也

とうの孫 ぞ器用ことう

を坊の字也

とくくむ 中一あふんこ

とりあも たりりこ

くくおまて むさるハ

遠透也

とくたし たくあし

版立あし

ほうそく わるなるんこ

むーとみ 中籀なり

けうると云

とからん 文字一法く書

車へ又手本

あふんまの

小書と云也

とひおくま 色乃ぬ

庚字
仙原

迷あつ也

あくのうぬ

放あり

とからん里 中川乃あに

里なり又苑の

あつ里む散

系り作名也

とあつと 物終の若く

とつとふ 虫のむふけ

このころぬ 口乃よまひ

とうの孫 ぞ器用しとう

を坊の字也

とくくむ 中しあふんこ

とりあも たりりへ

とくおを記て むうるハ

透也

とくたしと たくあしと

版立あしと也

ほうそく わもなるんこ

むしとみ 中籓なりと也

けううると云

とからん 文字一併く言

車く又と本

あふんまの

小書と云也

とのおくまの 色乃あく

迷あつ也云よ

あくのうとぬ

放あり

とからん里 中川乃あに

里あし又苑の

あつ里む散に

あつ里む散に

あつ里む散に

あつ里む散に

あつ里む散に

可保 張

小あゝ正年此
園の事也

まこる

あかろしく

あまろ也又毛

納よしく

といふ形

くしき

首字と書也如

るるるると積

こちよの宿

重乃やりし

あうなるく

万秋示し

まきき

遠く見まは森

乃しくく近よるて

見まはあしとたを

さうおつる本也

こかたの帯

中絶するん

あしそく交也

標帯と書

こかうつこ

らとと云事

也あめた云也

えんま

月まれりん

うつろひやと

まふよりてん

えんいろ

同日也但赤も

小候ハ不愛也

くしき

疑すきと云ん

くしき

まの鏡をたく

薄まで形り

こしと打え

ろくの扱ゆて

海ふじとてを

りのあり

はまのえき

た玉棧へ玉

をかめうる也

三徳野乃浦よ

ある茶也皮紙

のやうるる

らる扱なり

ちふらう

扱と扱へし

也てのうて

とも云同まこ

たる乃色

ま乃きりおん

まこやの山

仙人の住所

也わりのれ門の

備へまの雨は是と

たとへてゆふ

ちらとるひ

董乃孫よる

扱へ是と灰小

よえてゆふ

ちーきり

物冬と言は

門乃は中ふわ

扱とゆふ

ちゆら

さ孫うてせさ

あつてせみ

むのうとも云
むつうふと云

こゝろ
とと麻呼茶と
云々麻の素々

えうり
多ハふりんと
て何事と羽と

あき
あきき為奈り
打たしく也

あけぬり
本乃くしめれ
扱あり

あけぬり
みをりふし

あけぬり
あけぬり

あけぬり
あけぬり

あけぬり
あけぬり

あけぬり
あけぬり

あけぬり
あけぬり

あけぬり
あけぬり

あけぬり
あけぬり

苑のうそ あり苑海
きもうつく
きりく之苑社

苑見月 三月也

えり孤 たり素し
人しう類と類

はとり乃社 本を寺社也
苑とる衣 正正乃り衣し

又社乃社とふ
袖利

えおろく 柳あてちく家
うく也三月

三月あさ小慈

苑也又ふりの
如さりとと云

苑やふ 都東ふりし
苑山あり

くあ連そ 括おくう残へ
むき衣 やまふき衣也

くからる 人死附飼馬と
放行也

たりかふ ありなるふへ
苑乃あのみやり 蓮乃世取

りりこあて あきむ心
くろのふへ ありあふ真

也九列宇士殿

長濱より元月

小湊門へ舟

えまうよあき 藤と多葉よ

ふくま

えうふ甲と積

らかハとま 山乃さうか

うら雨と云也

えうめ 家此あさり縁

たくとに居り也

えうなめ 身らと身かへ

えあまうらふ たいれう

えんかやめまへ又

えなのまへゆき是

えんかろうそ

やく事へ

えんの盃 蓮子れこく

あれあはふさ

うつさ也

えんかれえ 花れ枝打包

えんの本 帯乃若く又花

ととよめ里

えんか戸 大肉の庭子萩

えんか

孫形り

えんか殿 同信涼殿の山

えんか

くらの文 親王の春宮

てて持ふ 孫どかく家本

有利

くらの文 依振乃町の麻

乃事之他みそ

き乃人形乃事

花乃月め 花をちららう

とまうりま

花あり

とれくま 妻乃初る早

迷ふり

花乃あみ 梅なり

花のほとく 菊乃事な素

花はうま 本すゑ乃事也

花つあま かなんえふり

み草花云也

とらせめ 女おそハな

とらせ乃山姫

あり

梅柱乃らひ 目馬お妙位

のそむふりかこ

と梅らしと梅り

らに又書付取也

とやら吹 海津乃吹す

風乃を新まれ

草一之

らかひさき 務あり

えよきみたちら そさ乃と

のみしくれ旁

えめれ玉 玉と在祓之

羽明玉と書也

くくこ とうこまこ

くくくく 草あり

えれへ 鳥と云身也

くくそめ 玉のめま飛へ

えふふの白 女乃名也赤

去利

控玉乃法指 のきふまい

さなまこのみこ

よとまくるひ乃

時乃ちり也

死乃君 枯乃とひふ

妻れみあき 春の言乃り

あり秋乃ちかと同

あせ水意ふあさ

妻等といふ也

くひあひ 深物ハ根のあ

くあそと能

えれ物なり

ち中一の鐘 六月乃必

えと吹風 西より少く風

なり

まつけ草 根乃葉一也

まじり草 葉乃水うと

所乃まじり町に

り一と根取す

まじり木 根とつかく木

也又根とつかく

さや形り

まじり草 田と草根也

つハ助ハ

花をそふ 根をぬる也

まじり草 根をぬる也

く折なり袴のまそ

なとらりあけさる

也契茂川と見まよ

あけて海と云

まじり草 根をぬる也

と本利

まの葉 根乃葉也

まの葉 根乃葉也

正とりらと云

まの葉 根乃葉也

まの葉 根乃葉也

車あり

まの葉 根乃葉也

まの葉 根乃葉也

まの葉 根乃葉也

あともく早ぬ

くかき石 庭乃立石よ

くふ山姥 古林

花むしろ 花の庭也 庭乃

久小花ゆり

花れ玉へ虫 細ぬ糸小似

とりのけり

く代葉 正月三月れ木

天肉よ粒松也

くわき葉也

春らんき 冬乃梅と云こ

くーろ 朽くても露也

はとこの梅 薄紅梅

くらのと 琴乃身一れを

あり

くろみ草 咲初萩竹也

くそひろ物 ちいさ丸臭

世くさてせは

物ともあり

に

小のまくら 始て契瓜花

とりのけり

くちあく 似あまぬみこ

小くつとり 庭乃也庭乃

香と書

くちや うちくーきん

ういふ木

思女乃門よを

木也あーあき

も同家

あーろ

敷のりり有利

二四八へ

みあく

二万き世にあ

う同りり也

あはぬ於色

うすき心よ

白くし紙あは

み云車へ

みきさふ

ささあとのさ

うんなるす也

みしたつと

ぬみふとよ

たまねと云へ

みくひ

水神未此火也

あはの世

せえんふへ

よわあめこ也

新殿とよ

西里万葉よと

みあつさうり

えんのす也

よかてろ

水満れぬへ

みのまら

けさ乃まら也

ふ乃みち

ひん福の二乃

けさ

みよ海々

みあつありを

直あり

あー川

桂酒たわ

よき

行そふん利

くしくさ

おとりの

小の葉まを

始て葉あて

くひくさ

庭乃三

七夕のたむし

庭よ立琴也

ういふ

庭れたあたら

也又麻の若こ

小わたり

庭乃若こ

ふきたへ

七夕れあま

家也又小ふた

への布せほり

庭乃とへ

酒れ本のあ

利

よふれ山

大和乃又あへ

よまの里

備中二万里也

よわふめ

一和月中卯新掌

會よ祢小神稻

とをなり

ありひさ

うくひまのり

あーされ車

天照大祢乃

足らあを綿小

車よ紋織心

小あま

くまんとすま

え小あま水へ

東園より

みき緩の中

みはくこあり

子なり

みわしと地

はりりり

みそふこ

みくみ茶

是茶と書なり

みくさう

庭橋と云茶を

みくさわ

舟よりりり

みきたへ衣

七夕の織布

み井しぬ

新語あり又守

ほ

ほいあくて

かき人

みふこと

か

事あり

あのみる月

みるこ

みそとの

廊乃りり

東園より
あき緩の中

みはくこあり
子なり

みわしあ地
何ささしあ

はりりり

みさふこ
はくし乃女

みくみ茶
萩れ車也在

是茶と書なり

みくさう
庭橋と云茶

よくさわ
舟よるり

風所よき附槽

二つ法付と云

みきたへ衣
七夕の織布

あて玉箱衣也

み井し
新崎あり又守

と書流人之

ほ

ほいあくて
本言にあり

と書

みふこと
ふふくあ也

か
らかまのこさ

車あり

あのみる月
不乃くり

みるこ

みそとの
廊乃るりなる

みくさう

かきく

細殿なり
旅也

かきく

山島よきて麻

か乃めく

と遊物之火串

かーあひ

七月七日に水

月利

あきゆみ

方曲之

かい五さほ

お家乃多也

本言五換也

か乃く

か乃のなる事

かほー

稲れろろなり

かきく

かきくはひひて

くろくお仕也

かひふ

校のり之

かーうあふ

林旅なり

佛の知難波

津國よ阿々

正大和乃難波

堀江あり

あめうすめ

天照大祓子

執奉ー林也

あきえ見て

かきくらふり

あきえ見て

うさひ物もや

又登と穂子か

と云ふは海へ

佛の別

二月十八日也

星のあひ 七夕にみどり
星とあふ 帝王元日

の曉かしを祈
始なり

かき急 木乃枝の末れ

る也

ほこ頼ら 不こ依へ

あめくらし ぼ乃加り

くき利

かつため縄 帆をーら五

小中にうつ不

なりふとき本

あふといふ也

かみおれ あふをあふく

かたのらを 穂よ出うる

とりおれり

あふくしあ うとふふよ

用又行を後し

きふ也ふふと

きふきへ

かろく あきらの打を

かそなる くり衣れ様成

酒也菘人のき

終あり

かそろくせり 木乃目也

かきされ ぬつしあへ

かなむと

秋乃田一りこ

ふあひきさうる

新形り

ほや

あうここみ孫

ていりわひる

とらり也

あのをゆ々係

号の若く

わさひ

こんゆきさうる

形り

ほろー

ひえとりり上戸

と云草へ

り乃位

百官と云星位

かつけ

火乃つけ也

わく

さうみん心也

かそち

丸形り

かて

帆とまく細く

不やれ薄

神殿と人家も

薄あへ地と云

へ

るら

るー可と書

へ忍同家

冷そん有虫

松軒一八人

ふあひゆあへ

るた

満りんここを

るこの見まふ

甲斐の圃

ふまみちの圃

よもある也

るつと 海軍有利

と

とをく 大正十二年

尾巻と書入

と成たらく 授元をみて

幸勿致事し

兵もつと きよめあさ

於女し

まらの寺 大和より

とこのり 俄なるるりし

とけ 常任の事也

と流 うらくと流之

と成玉がこ 壺き乃なり

ともつ人 のなだら也

とし乃む 年毎に又と

と 始形り

と 昔年あり

年よつび月 十二月に

とみくさ い孫有利

とろみ 孫あり東流子

とらりの旁 祢乃ら也

と 黄岑といふ

木形也

とあさけ 常不心と書し

乃ふと云ふ也

とよむ けきなり
とひ 菱山の麻をい

熟すへさまじ世
生家ゆき不短
持してを回分

とまた 田の取手へ

とらよ ときほの圃也

又蓬萊山とと
けふあり

とふよくて 町直よきこ

所せさと 所とせあへ

ねさこ只磨ん

まのあり 大内乃首舎へ

とらきよ されあめりきよ

ふ車一利

とーあえ 年な三月あえ

とめこー ころ孫こよ

とーあえ

目なみ回分也

とあーあへ だえぬと云

るし也又つひ

みと云事へ

年ふけ 年をくるとも也

年ぬくさ世云

とよんこ雲 歳乃手れあ也

冬なるをへ

多分の松 子年子一夜花

咲松あり

と此えとるき 奪乃多来れ

投竹ありとみえ

さみくらと云

也多采と書え

とふかくに 在右と書え

と此おれ袋 宿直人の名

字を裏より書

付取なり

と浅つたの人 十烈之馬也

あり

とらふあり 時玉りのり

と此わさ甲 天海と云年

小一水乃海に

是ゆこしく 灯籠のふ也

とらふは取 拾遺小春野よ

讀小よきと抱え

とふひ燈 春月野にあり

と思ふうみ 菴尼角見也

とらふみそき 大也の侍

板之大掌會乃

沸くくへ也

と此まつこ 法司候て使

勃とつ小とし

歎く何利

多の定書 孟春と云人逐

若くて庭をけり

孫とて宮殿あけ

うせととりしむ

とる書 とちのゆる也

何も毛とりゆ

取るゆと

おの備うし 宿直や書

和の成り刻より子

とち近丑の刻より

卯さちを目ら役し

年うらち 只あうたまる

織なり

多わらわ 馬の夢さふり

形り

とのの姿 並長姿也

ともく ともふと云ん

さうんん時ハ

我色ともく

也はり

とよき こけらのるり

なま本れきり

くの世又あつ

見たり

とーのよ くと年を云

五字形

とふ乃すらと 奥列とふ

数乃とぬよあ

みうるこもれ

車あり

とつけ 常小物れ陰成

とらるこ

とくわとら 多ととるこ

云也多持

とよみき さけ也き酒

とぬぬらめ ちんせめと

云はとめ形り

とたえ 絶えつぬ事よ

冬ありのつ経

行車あり

とさる風 時乃風也つハ

也とめ字こ

とらるぬ だとたしぬ

のらあり

とみくくこ 菴見角見也

とれそめき そめあハこ

可ら一交んこ

とけてぬ 外へ出あり

とらるぬそ 女の君也古

今乃能者あ也

あり

とこをば 佛具なり

とめて 為也又とむむ

とこのうみ なみた也

とありまふ ふくめんくさへ

となり男 業平の君なり

とより火姫 七夕の事也

とうをなく とうてんせ

とうては ねを来

とこあへ めとよむ也か

とこり なるり成すへ

とこり たま布あさへ

車一也

年たつさ むらう人世年

とあつたむ 帝乃法在取

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とつて教多 せよまて云鳥

とよくふ
とよて海之湖
乃橋又あくと
ゆたうなる圃
利芝圃

年らひの糸
大袂文以下
三千一百三十
二座の袂とま
ア年矣と初也

多のみち
やれ車
とよをう娘
又昔乃舞娘
天てらと法袂
ともいふ

十のいし里
橋乃るりい
とらんの法
所乃法度之
ともれと
伴男有利
とこよ物
橋也とこよの
ともいふ

とらんの法
所乃法度之
ともれと
伴男有利
とこよ物
橋也とこよの
ともいふ

とらんの法
所乃法度之
ともれと
伴男有利
とこよ物
橋也とこよの
ともいふ

なまら雪
なよあらし雪
のしるさまの
あし路也
年乃こゆ路可
麦打里

とらんの法
所乃法度之
ともれと
伴男有利
とこよ物
橋也とこよの
ともいふ

と海軍 きてーこ也
とりり詠 町也志りーを

町うこぬく まうけつぬへ
くわ利

とよきてえ 未代世子成
てーそ也外ふ

あくとり なるひあ曇に
里那

とこめ 水と石との名
ありとこなめ

と山おち 鳥や鳥入古
くーれと續へ

毛為残うるへ
町子目小 町毎月毎ふへ

とーきり 死実年きり正
於事一也

年きんり 年乃極あり
と成乃分ち 於庭と書て

とと君 せり川の大將
利

とく 柳亭飼町わ々
たのあとく

みて五永也鴨
子あをほり

子あをほり

とあこ 多敷洞也
灯乃苑 光那下子及
其の也

とやくとり 切方れと

と里也又響の
まともいふ也

とりに海ふ と里こめた
於那り

とこよの鳥 目祢若戸小

隠所町新之城乃鳥
をみて相ハ明より

とよ文人 とよハ目出彦
と鳴せし事し

り小所くふ也

豊内祢示とよ
年向家なり

とよふらのつ目 書事也さ

こよのかくま 左右目記

とら共也 屯食つこいさるよト高とよ

とらと 一海事事なり
とら方事しやるの 望仙原

ちの流の法 竹乃事也

手為しらひろ景也
又伝彌乃竹也法凉

世

とあこ 多丸網也
灯乃苑 光那下子取
たりの也

とせくとり 切方れと
と里也又響の
りともりふ也

とりよ海小 ともこめた
たなり

とこよの鳥 目祿若戸小
隠所町新之城乃鳥
をみて物ハ明なり

とよ文人 ともハ目出な
とよ目出と鳴せし事し

とよふけうふ也
豊田祿示とよ
寺向家なり

とよふのり目 市車也
くさるハ入り
也月由をあり

とりの色 うつろふと
りふろし

と浅ら 市の名なり

ちひ流の流 竹乃事也
手為しらひろ景也
又伝彌乃竹也法涼

Handwritten notes on a separate piece of paper, partially overlapping the main text.

殿の法あふうゆふ
とと云おり

らうらひくりれ こそくそ

まると云ふをむ

あやふいふ也

らろり ぎりくをと

いふおり

ちあゆふ 久松の祿也

松とも云ふを

ちよふ 松といふを

徳也子孫

ちくさふ さぬくに也

らなふさふ さぬくふ

君代立なり

らりりりり せをりり

らのこま 子あ乃こり

孫あを

ち人ふろ 一人當子のん

ちこれた 殿仕大臣と

辞して後又片

うゆれと云ふ

莖乃救世 又百葉強劫也

ちこ表 明石乃中交へ

ちとせの板 年の救也年

いゆりあよ板

といふ片葉

ちれ浚

浚つきて浚血

乃洞出と也京和足

ときらぬ城かおし

まのふ不知とて此

車あり

らひきれる石

子人して引

石を引

ちりり車

物とあまのこ

牛ふひうす取

車あり

ちき

社乃う人よ打

ちりひてある

本利

ちき乃くはて藤田の枯よ

本利

ちきひ本家

ちりえみ取

ちりよま

ちきよふ取

ちり心也

ちきよむ

母乃おんを思

ちきよ

乃れ所じと云

ちりりり

巻月利
少の事也取
乃神と云蓋積

てふと成ふ也
菘之とし ち里とををり
いとけり

千尋のたぐ繩 天のむす

ひ乃文能の町
百粒ひよて
ゆくおを

ちくさの教 笛み不浪さ

ましく乃夢之

ちりまうひ ちりま也

ちよ乃坂 千代乃さうひ

也久夢心あま

ちくさ ちくさふて志このり

ちりくとり ちりり也

ちりりのををり いさくり

お教ちり也云

らまをわて とまをわて

な利

ちりりの備 ちりり也

ちりり也

ちりり也

ちりり也 橋也廣遠よ

大父あるへ

ちりり也 陰神隠給と

あいせよ里遊

色之袂之め

小加ふ袂也

ちきほより を染取とて

禁中ふ座敷

ちよみま ふめ縄を付松

とりふ也

ちのれゆき 天照大神

やらく井あり

ちゆき此扱 ぬ本扱

ちまふ乃かこ 袂示附絆

と茅の葉もて

ちあは 水登月の板

臭也茅縄有

ちよのりさり 袴之正に

しき成扱て

ちととうてく 忍緒

と付くる 飛付利

ち原乃さ まのとも小

あす人とう

ら介ととと

なるあり

り

ちちれなる 秋冬乃綯子

也律秋呂八

あり

ぬき次 ぬ たろひの上よ

竹とあきて玉 物形り

ぬまきぬ 人の料紙とふ 事也打き名

ぬきみさる つくぬく也 乃立る人

ぬる玉 爰を云寝若と 書あり

ぬのくさ衣 かくまぬ乃 也迷るる人

ぬさ 押んるいあり

ぬうけく 礼ねり事一

ぬくのき 鷹川足とあだ びり馬也

ぬまき馬 鷹小あひて 葉けりを飛ん

ぬまきまきか 志のふん也 ぬま海邊形り

ぬふん 水景あを 我と志かた

ぬきりは 権馬未のあへ 形所なり

ぬあぐり さのさき事

乃き也人れ公

乃ぬるきと云

夜の枕詞へけ

した偏印家丸

水ありのまを庭

こみなる所也

所く一言良

山乃るりこ

麻の車形り

人あそりて

くく形くす也

相撲乃後まく

里で出とゆふ

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

ぬえたま

始をハ合合と

ゆふなり

物よあう形り

ぬる水とらす

相毎よ織

さ終り利

あうきさ急をか

まくるみこ

よぢ人の人お

ぬさと結てあくろ

小入て傳りり心

まひふくろとます

あふくろ也

る

孤いひ旅く 一旅り此處

とりのふな利

海りの君 玉ろく内傳乃

とけのえらん

るれ若那り

を

をくくを とくくう次也

をうかく 女くきこ

とくくき 松とこく

志きあり

とひらう 何ひまうら也

たを孫とひま

あが成云也

とく海え ありませ

後撰の言よ是と也

さへく海さへとも

是もをさへて扱は

とくませたり

をこけうね 誘おと書目

中祀りあり

鬼志うしや 鬼れやうに

しや行を旅し

き人也とよ

お人とも云

とふ乃志と茶 志蕨之蘭

ともいふなり

とほすく山 信濃ののり

とふく山乃り山乃り

伯母とをそし

よる此名なり

を車の録 目書交綿也宮

乃みろ小用紋

小廿身車れり

はりある人

とありみ月 本乃君小出月

をまたるお教

とありと

をふられはこ海 同也但奥

列とふらと云

取なり

とありはと におはえ雄也

とありとひひ

とあり雄とひひ

とあり

をとめ 向さけき女

又ハ舞姫と云

とこ衣 まひ人并者

とありのきぬ

をさるる鳥 鴨と云ある

とそくとも

つもの者あり

とありと

とそのたれ 酒うそ始ハ

たて極建後く

ひ合存里

をそれたう終と 大付乃

田五成の小石

川乃女と恋し

人竹利

とよむけ ねとあしきぬ

なり

とそ備し うとくどそ終

しきこゝ終也

又れそ五人也

ゆふ打空

とよまし 同事之

をまもれ 伊路かの着也

ね建て年少終

ともあり

とましく後 かね終く玉

なり

をさめ今え 不條と洗下

女之忍くたゝ

とまあり

とよま ときりきひま

なり

とよとめ ときハ物と志

ゆる事也

をのら 乃建ら利

をあ 白ら也

とこ 満るなり

とをの人 乃後あり

をへさるあ 物れを

らう取事也

とろ 馬牛のを後と

あり

とけさ所 大掌會此所の

車也大欲所

をたやとり 田乃産と

人利

をらこち かつとあ

と云をあり

とへ中 男と云也八

係とかくあ

すりあり

をのりせ 物乃く

とのりあ せれり

くあ

をちか 与後きの

とつかへ 月建も

をめ里くら 山なと

て下也

とよわら 雄一字と

鬼やら びと積なり

追字をやらふと續
也 詠歌よ初日く

まこみ 嗚呼也

とり玉の本 正月松竹の

うけ乃木也又

柳と云なり

をにうりき ちと同

とりひめ 七夕れりい

織女と書

とり孫と云 田との縁へ

をたまひ 山若乃かき木

也又女のうむ

と乃をそ也云

物と云り

とりぬれ ねと落へる也

まろり くらあかふ心

とほしぬ らんくんの事

をちろ唱 附香たかく亭

事へ百字也

かくと書也

とりとへき う次これ衣

を里とるてふ

と法くくた利

をのえくろ家 晋王賢石

室山のりり

とばをとく 祖母殿あを

をうか小成 赴くも也

とてつろ 燈満り利

をくりの翅 飛馬尾羽

乃車一之

ととろへ仍 姿見くらし

くなる形也

をひうれ 向さぬ人并

乃未よ人小

おらんしら乃

見ゆるこ

をともひ 意のらぬ也

をうこのなる すすると成し

をろら 小蛇と書あつと

を気中海 川乃見あのみ

奥中川也

響乃流るふん びり思羽

と云羽まて玉乃箭

と切りをそれよ

乃名入漢白重れり

をとく葉 菊乃包

をとめ葉 印方形り

をの淺 於麻川の末海

八入あつと云

とてのひ多 庭高けり

とてまのさ 伸くるる事

をくし海 禁中あそらん

らん乃る事也

とみほく人 思人小ま乃

ほく事也

とやふ 風の名也とら

みよわ吹風之

を死さふき くらさそて化

屋ハさのさぬ

に少く

と一ま 虫乃損志とた

田と打候とと

のふ那り

とと後 びとく也

と一たふ かなふとのふく

を於玉の本 法即位の時

法寺と並て朱

めを書付不し

をそよふり となそろしと

事不利

をと詔此乃 棘路とて云

御礼なり也

思意なり

とけり 孫乃事打白

をくれと となそく海霧也

とくれ霜也

と一圃 定ての圃あり

我ふといふ

をなみ

女あま

琴乃浪の緩

波乃綾子踏

と織まむせたり也

をんふ車

人送と云車之

引車同了り也

織姫乃水

余吾乃満り

織女天下て松よ衣

とけしりて織姫

の水あめゆきあり

とほふ

うじきと云草

也糸ハ空菟乃

あまくあり

を角れぬえ

軍笛之衣靴

ふえの正鉄笛

と吹と也

とそる

あさ馬那り

をふりこ

表虫乃り

鬼之子

鬼の海と云

行そ海し

きをの子と云

あゝ海也

とへ草

落草れ上と羽

と引て知あり

をのあろ

淡路島也祓

代乃車入

とほし海と

勅控のり

どしかのれ水 伊勢介文
みよ天川水
下て至終之

わまき 藤子位科一れ
名之元ひ乃こ

とく形り

りわてあえん 道里かく

ありんと也

わさ所之 海乃地若之又

満庭の林と云云山

乃林と山すこと云

あゝあを

たろうと 秀座打包

候しわて 日と一とまた

形あり

くくなみ 意取く海也

わの孫者 神子祈りと孫

正小付中と云

えくくハ ま禊りあを

たまさうおせ

まひら 物まひしき也

わふる 人物とらひ取

るの有利

わしく 分酌あを

わてくむ 穢の垣とり

みへくみさる
なり

我りのきりま 我の入り
あとうさうふ
事なり

まきこのの 野乃君あり
竹也白樂天竹
をきりなとを

けうきあり
けさありなり
野中にきり水へ

点水
後て又あるあり
也かのみと云

わの大江流るふのきり

の車也
春ありハ霜を

わをゆきまや
やんくくかへ

うやうや車

和あり

わうもやまきやるけれ

事也おらり
の病とゆふ

まひあそひてふは
付うる朝也

わりあり
いんくあか
うちわひし

あそくみさる
なり

我のきよき 我の人々
あそくみさる
事なり

まきまの 野乃君あり
竹也白樂天竹
をきよきとて

けうきあり
けきありなり
野中にきよき

きよき 野中にきよき
後て又あるなり
也かのみと云

わの大江流るふのきよ

わの霜 春ありハ霜を

わのうー やくやくくか

わのまやこ きやるけれ

の病とゆふ

まひあそく 付うる詞也

わりあり いんくあか
うちわひし

Vertical label at the top of the left page.

志草

のりくあり
唐書一ふ似たり

景也花よとて是は人

をわとゆくと也賞

景へは景亦神供と

法く介と位右乃神

わまをかう景亦利秋

別てあり

別てあり

方分て也

あまくわくき景と

云病葉と書也又景

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

と云也

あかしの色 若菜苗乃多

日くまやう母 王ハ姓ハ

今ハ宿也

まろかき あり髪り利

わさね 如う一乃むと

日たてて他ハ

踏方附あり

海里河 三途川乃多也

我世ハ 夫打り

まねもこ 妻乃車ハ

わらふて わらん魚の市

まろんととり 皇孫ハ

わさねき 四月一日始り

まなしく 少家う車ハ

まさい孫 假初りちと

まろ一 ぬるり也

まろ一 風の名也八雲

まろ一 小あり

まろ一 衣の名也七夕

まろ一 のをまほ我云

我山 ひと乃山也

わさ乃り 田植くそたろ

車一あり

まろ一 相摸乃圃ハ

まろ一 又あり

まろ一

まろ一

まろ一

日けいろち 賀茂此来社

あま

わた殿 海殿へ右雨よ

あま

わさあま 天乃岩戸乃祓

樂せしり

日紀への菟 我殿此蘭へ

わけ なるま也

わさひの祓 日乃まを

しをきしう祓とぬ

衣の若へまをひれ

祓せのふあり

まらひこ 妻あま

まらひけ 日きまを

わさひま ぬを蒔て世

まらひえ乃布 祓り

わさひ

わさひ

か

かきうひて 宮居久

神宿也神用い仙原

まらひし 祓よ初うへ

まらひ

あまやあ 海乃中承棚を

まらひ 日き祓のり

あま ちとせ氷祓と

目けいろち 賀茂此来社

あま

わた殿 海殿へ右雨よ

あま

わさおき 天乃岩戸乃祓

樂せしり

目紀への菟 我歌此蘭へ

をのま

わけ けのま

わさひめ祓 けのまを

不きく祓と勿致

衣の若くまひれ

祓せゆふあり

目紀へけ けのまを

わさひま けを菊て世哉

をのま

目紀へえ乃布 祓りて

物利

か

かきうひて 宮居久後公

けのま

きほうし 祓よ新うへを

けのま

あまや考 河乃中承棚を

けのま

あまや 氷祓と

毎朝の御祈り

まの取車也

りみし後 蓬来文乃り

神鳥と云ん

神あり 神乃めくこの

車乃り

うん風 吹風よあくと

神の威勢此車也

忍之とそ川小神風

そ吹と積り

かき下乃綿 正月七日小

大内あて綿とより

て舞利踏言の人

綿をり心と花と他

うさくとあふか

乃花ともよめ

かこ見 別て後ひる抱

あり

うあつ うみ也

うくと 接乃初之右取

小あくと

かこく連星 明星より前

よおりあ

か連月たき

いとより

川之連時 ありと此車

物り水急り

あつす

髪のさうりんのあつす

うるかえ也

うらふよ 辛勞れる也

又うらふよ

思ふと辛勞也

於あつす

あつす 人形を田つす

立あつす

うらふ紙 紙を洒らす紙

うらふ紙 紙を洒らす紙

うらふのき 紙を洒らす紙

那む

うらふのき 紙を洒らす紙

那む

うらふのき 紙を洒らす紙

うらふのき 紙を洒らす紙

うらふのき 紙を洒らす紙

る也

あつす 紙を洒らす紙

る也

あつす 紙を洒らす紙

あつす 紙を洒らす紙

る也

あつす 紙を洒らす紙

る也

あかき 鳥丸一君也ら

きき多之定家卿

も定くうとせ也又

雄乃子人とも云

うか花 枯着と云存也

かこいなる 久しくあ

あまへ又うと

初ま回分

さちやうふき

まい成那り

うこくとり

こひさる存也

かぶきわの かく存も此

形とすくとも
はま

かりう

かこりふ

建あり

うけ乃花 ひんくあ

の入物那り

かそいり ちく母れり

之乳は 隠道と云存也

と云あ

か日ぬえ そやしく神

りり人 山乃りも也持

りきま 祝の時同を忘

はめんはぬれ祭

也む乃時よ不恨

海く海 岸乃水小うつ

あかき 鳥丸一君也ら

くき多之室家御

も定くくすと也又

雄乃くくとも云

くか花 枯着と云々

かこいなる くるくあ

あまへ又く

初之回分

かりく さまやうふき

連い成なり

かこりふ くりくくとり

かぶきわの かくふま

建あり

くけ乃花 ひんくくあ

の入物なり

かそいり ちく母れり

隠道とくく

く乳は くと云々

と云々

か日ぬえ そやしく神

くり人 山乃くく也持

くきまろ 祝の時風を忘

はめんはめれ祭

也む乃町又不限

海く海 岸乃水小うつ

かこりふ

死するに又

の海なる

と云川隈也

残り蚊と句

煙あり

祚の清め

よや祚衣

かうくく

之祚く

又くく

ともいふ

かえつて

也鴨ふよ

也鴨乃とひ

舟鴨より

つよりあり

かうか教人

ゆり車

乃字形

うんで

ういばりの

き酒

かこけて

死る

いふ

うめれう人乃山

きくめ乃肖小

負形あり

くはらふ

玉くころあふ

也けし玉路う

たわ

かすまへらま

うすへら終

るり形あり

ろくひけ

おもつろひち

形利ろくろと

縁あろ揺り

生ころるこ

くんと海

壁代又一馬小

海でくけころ

消物あり

うひと

終末火とけ

のさぬけ

かき酒

神酒之又首ハ

米と口あぐり

みくろきてさ

あまけく終こ

うまけり

礫の字也こめ

とくひさ終て

酒よけり也

かきり

么の戈字之又

くまじくし交之同

前也日本記みり

くまのり

くまやうり

くまのり

さめて裏と表

も紅あや

加藤乃こ

くまのり

くわ乃西語

かこり

考也羽とを云かう

のり羽と忍て解

をほく羽とあり

くまのり

天皇伊豆みへ

長十丈下他終

舟世根野と言

かこり乃のり

編西夜 平浦也 原 紫米打の白世

久也のり此

綾ともあり

物語乃名くの

こも里世云

かくや姫

竹方乃翁り

中一打を建し

りとも利

満門書あり

類聚 卷之六

くさりとあり

くさやり ぬやり也

くさ麻里 紅乃色し少く

さめて裏と表

も紅あや

かゆ乃こ 鴨れ子なり

くさいて そやうはへえ

うわ乃あゆ

かこりり ううとりと云

き也羽とを云かう

のりの羽と忍て解

をほくふとあり

くさ 亦れぬへ紫律

天皇伊豆みへ

長十丈子他給

亦世振野と書

かこり乃あゆ 只きぬの

紫束乃白世

久也とりれ

綾ともあり

物語乃名への

こも里世云

かくや姫 竹乃乃翁り

中一打を達し

天人有利

りとも利 湯門有あり

類聚 卷之六

久人の きらね乃座

不拍梁殿

の織物 唐やう乃合

名形り

きらりーも 篠く扱てら

のさき成云

しーして 供侍あ仕人

也膳部と書へ

久人里教 律へ

子りよふ我 七十以後也

り衣 持衣れ車へ

孫子若ら終を

とひふ世

方立のつし 禁中みりれ

勝負乃りへ

のりれ所よ

くくー冬わり

うやまぐ ーくやまぐ也

かきー乃屋 地元のうて

形斤金銀山館

あとして金館乃

むの持未も

うけくーく 便そへけ

ゆくらこく

音あー存と同

心なり

うんたき

男うんたき女

かんふふ有利

うまのさう

行を極しき

降魔ね也 仏原

肝あり

うまれうわて 笠のどく

はくふ物く

うひや

麻紙とふむ也

麻火屋と書之又蚊

まふ甲そきんたぬ

ふ煙まぐ持く物

とまひふた

鳥羽のみ

昔うまの里鳥

の羽のみを書

て候と白衣小

うけりて積し

う候て

趙字麻と馬

と書て玉小見

せし事く

壁よ人を忍る とうり天

七宝の言敷乃

り人小人升海

うつると也

うまの結 琴入りある

也法道乃人あ也れ

をくたやを時くを

うまのうま

かき

かきあり持人

麻よ乃令し

て果あとり

さしを云

河乃瀬を云也

川門を利

かくま住雨

船漕りの云

也水手と書

行を乃

まきこ

あ

うはと

うれり

かこ

し

あ

あ

し

其清司といふ

な

えとを云

一云

浮宗

あるぬ

隠沼也

泊瀬乃

極樂と云

芥

河内國

系

かくまぬ

く

くわぬの

か

冬條しよこ

くさろ海 のさられかむ

里也人形と云

重うりる 祓の附乃盃

うりか うりりのも事也

苧穂又雁よ他うる

唐あまうりあのみ

ちとハ定うる調之

から介 小舟よ本をた

をめてやのこ

乃軒子にあら

糸といふ也

祓のり落ぬ 祓をたふ

外務りんと也

意と祈に子川

石おもふあよ

のこ山 生うる麻を入

て玉泉と云

かさぬく麻 百日飼て右

のうこれ骨を

方て物と合夫

乃鹿よさす也

のさくあ うりり利

うこそき他 む録小子本

ある社入りたそき 乃乃あひとも千本

の都合とも

かゝる

うふを搦

を云之又りは

搦なり

うけはふ

つさふ物やま乃定

みさふ虫と云又

月ヶ付あとのりた

あふふと云又りけ

車と云ふ

かくふ日

くた物れきよ

まをかくらふ

うる酒之思龍

きよびあま

さそふあふ也

きなるうと云

あふ流之書と

きなる物なり

らゐのまゝく

かゝる時乃る

かゝるそふ

髪のみと云

うけはく

てうあひら

ん也霧の字

かわき

まへへするん

也詞と加と

校をうもて同

あそ

かつくくを

又のさきん

うろこ

男三人を多れ

も耳世地よ

とあきし人也

うんさふ

少くも云

心之うけらひ

中さぬんを

うんまき

祿事也

鶺鴒のり合

七夕を候うん

とて為鶺鴒也

あまうん

りのみそ

也持はま書

けりけ

人

かさび

うんなるれ人

上さぬん

人

かろりこ海

さうりなうさ

うさ波

新女切ハ

うさ波のり也

くさみ

きぬ乃上小器

すす物之唐物

あま

くひ海見

地ありにありの

くふんる心垣

る見と書

かまのひ

何飯乃るの

くま

わくまく也

かさみ

苑正築之

風すさふ

吹るの也志く

風吹きさぬ 小き也むす

くさくま 系くくの連

くさあり

かくなつさ

十月不利

くまよまめ立

家中小鑑録

をたてく菅笠

減きせてまろ

あまひく

くわわうは

山依あり

くくくく

竹を云角柱

海原よりき

菊玉のよ也

らりわのとまて

秋乃田と

菊の形あり

あて

かこふ打を色
あて

かき電

うらうけ也又

せいのんす

みし假云と書

の属く小鳥 豆鷄を云也

かこへ くらりくえ

くえあら ともふく也

かくしつ 隠名と書なり

伊勢物語よ

かこ乃紅葉 冠の角括

なり

くんうの月ひ くらり

へませう宗ひ

くらりよと云

ふのきれお綱 うき記

緩あ

河川くみ 七夕のり也

くここの水 じん乃多

くくみ系 大根乃利

懸よさす苑 所か小いお

くらり

くくさき 追雛乃水門小

いたりの着と

こくしてさ

事と

かられし姫 七夕のり

く見の多 所よ姫乃具非

也鏡の里亦位
於亦也又伊勢
神明あり

うかよる ひまいと云る

也そふ鳥也云

うひひそめ ひそうおれ

東一之

鏡の影と恨 王照若ハ形

と損て益師を

不頼亦ハ胡圃

へ海さあく

唐乃玉札 籟たり古也

りさしと鳥 是も籟たり

う原ありね けられ事来之

うさ忍のや 亞山乃扶女

とその懐王晋照王

二人戀結びなしく

成て後物よと成

夕ふちるむ成亦也

形見ぬ回参

加所忍 草也又うつこ

策と云ハ海こ

を片重

川かくさ 若苔ハ水底

みらの西とく

なる物あり又

川舟の正統に
海の色と云又

うき草と云又酒
乃吳必也又清涼殿
小川竹とて産を

震乃から
仙人丹住所之
又帝王乃とる

うきくら
俄小くら
成る海也

うきくら
竹此君所也

うきの苑
月の光也
け乃とまは
鶴乃尾之

かえまは船
櫓の床を海

きくら
舟ともあり

うかた
船治也
くみせのふ

かよとく
よとく也
ふ

うきふ
麻之角
名也秋の秋

あまの
か祿をくひ小
うけてあるく

うかす
とひふ也
やきんのま

かた乃と 鴨乃子始り
くこわく 田島年々せに
あはく云片

蒸と書

うひそく 貝たよめと云
あふなり

うひこのすか 蚕よあ
ま量のとり付
うらるり也

くしや山 紀伊國よあり
かたとくく 藤小ありと
めまのくさよ
すわ地なり

かこくこ山 大和のまふ

也林善山也

くもの死衣 伝人の善衣也

蓮あま仕とこ

うめれまら 龜乃甲の

長ひる人と云

八卦乃事也

うめれ又た

うはい日う 心す又すの

賀月利

くしよ 内約雨を云湯

神示雨也

くやあ 雨領の若也

川をうき

川の上へすと

かみへき

くりて右を利

取ふよわかく

あるへきと云

かくのこた

うらなれり科

蓮葉よるを耳

粒しふあま

くくくお

佛神よ宗子

を打るりなり

ふれまふ

郭云れ教

世不ぬぬと書

かひりり

まろみりり

あまう馬を也

りまらま

又色り系

あてぬされ

くぬ乃ぬ

水の深あれ

るりなり

かつま

楢の名を也

りまぬる

まはるる夢

りまよと

川乃よとみ

りまきの

任吉のま

玉乃はぬと

祓のみむ

中一語を也

りかほり

祓承乃舞の

小あるなり

くしこき 雲打り

くしつり 江の裏くりにた

くしつり 於もれなり

くしつり けりし錦を

くしつり かくる地也

くしつり 伊勢内介家の

くしつり 男は山なり

くしつり へ 窓教也

くしつり 大匠の事し

くしつり うつくしき

くしつり 乃りて終りし

くしつり 老人ありし

くしつり ありと云

くしつり 子り

くしつり 津の圃り

くしつり 千里大塚と

くしつり てはりそを

くしつり 小ありし柳

くしつり 車の姿地也車

くしつり 乃ゆりあり

くしつり 梅なりきり

くしつり 景ともいふ

くしつり 加らつたを

くしつり 形も地は

くしつり 形ありし

くしつり ありなる也

うそげふ 悲なる也

くろく ぬれ けんとう

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

あつち ぬれ ぬれ

